

## 令和3年度中央畜産技術研修会実施計画

※末尾の注意書きを参照のこと

NO	講座名		期間	日数	講義内容の概要（項目）	募集 人数	受講対象者
1	新任畜産技術 職員（1）（基 礎）	畜産技術者として の基礎知識のため に	6/1～ 6/3	3日間	畜産各分野の基礎知識（酪農、肉用牛、養豚・養鶏 ・特用畜産、飼料、畜産環境保全、家畜衛生、JGAP、 アニマルウェルフェア）、畜産関係主要法令、現地 研修、課題討論等	40人	国、地方公共団体及び畜産関 係団体の職員で、畜産領域に 配属されて、原則3年以内の 者、農業に従事する者
2	畜産行政（総 合）	畜産行政推進の基 礎知識のために	6/8～ 6/10	3日間	国際食糧需給と食料安全保障、畜産行政をめぐる情 勢について、飼料自給率向上、食品衛生と畜産物の 安全性、JGAPの状況について、アニマルウェルフェ アの現状について、食育推進、会計検査制度、マスコミ から見た畜産行政、課題討論等	40人	国、地方公共団体及び畜産関 係団体職員で、当該関連分野 （行政職務）に配属されて、 原則5年程度の者、農業に従 事する者
3	畜産物安全行 政（総合）	畜産物の安全確保 と消費者の信頼確 保等に関する取組 みの理解のために	6/15 ～6/18	4日間	生産段階のHACCP方式、JGAPの状況について、食品 表示、人畜共通伝染病の動向・食品安全委員会にお けるリスク評価、動物用医薬品・飼料のリスク管理、牛の トレーサビリティ制度、東京食肉市場の個体識別システム、リスク コミュニケーションの推進、畜産物の安全性、大規模放射能 汚染への対応、リスク管理とは、危機管理とは、安 全な食品とは	40人	国、地方公共団体及び畜産関 係団体の職員で、畜産職域に 配属されて原則として5年以 内の者又は、当該関連分野を 担当する者、農業に従事する 者

NO	講座名		期間	日数	講義内容の概要(項目)	募集 人数	受講対象者
4	肉用牛生産技術指導者養成 (1) (専門)	効率的生産技術の指導者育成確保のために	6/21 ～6/25	5日間	肉用牛をめぐる情勢、家畜改良センター業務の概要と牛個体識別業務の現状、経営管理、繁殖牛の管理技術、哺乳子牛の生理と飼養管理、改良と登録の実務、受精卵移植・雌雄判別技術、肉質評価技術、肉用牛審査実習	20人	国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等生産者団体の職員で、当該関連技術の指導を担当する分野に配属されて原則5年以内の者、農業に従事する者
5	放牧(専門)	肉用牛の放牧の推進のために	6/29 ～7/1	3日間	<u>経営視点から見た放牧技術、放牧牛の衛生管理、放牧管理技術、放牧草地の更新について、水田・里山・耕作放棄地への肉用牛放牧、放牧の実務、総合討論、高張力線牧柵・簡易電気牧柵の設置実習</u>	30人	畜産職域に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者
6	食肉流通 (専門)	食肉流通を取り巻く諸状況の認識のために	7/6 ～7/9	4日間	基礎知識(食肉流通・表示・食肉加工・畜産副産物・食鳥流通)、食肉処理施設の整備計画、食肉処理・加工の安全対策、食肉流通と関係法規、食肉の格付け、食肉品質評価、食肉衛生(学・行政)概論、生産段階における衛生管理、牛肉輸出の取組	20人	食肉流通の安全・衛生に係る指導を行う食肉の処理・加工・流通事業者の職員。又は国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者

NO	講座名		期間	日数	講義内容の概要（項目）	募集 人数	受講対象者
7	飼料A・B (専門)	A:飼料を取り巻く 諸状況の認識のた めに  B:食品残さの飼料 化を推進するため に	8/24 ～8/27	4日間	流通飼料をめぐる現状と課題、飼料の安全確保、飼料給与と栄養、給与飼料と家畜への影響、飼料設計の基本、流通飼料、添加物の安全性と品質保持、高付加価値畜産物の生産と飼料、 <u>食品残さ等飼料化技術</u> 、 <u>食品残さ利用の養豚農場実践事例</u> 、 <u>エコフィード</u> をめぐる現状と課題、飼料化技術、課題討論等	40人	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等生産者団体の職員で当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者
8	新任畜産技術 職員(2) (基礎)	畜産技術者として の基礎知識のため に	8/31 ～9/2	3日間	畜産各分野の基礎知識(酪農、肉用牛、養豚・養鶏・特用畜産、飼料、畜産環境保全、家畜衛生、JGAP、アニマルウェルフェア)、畜産関係主要法令、現地研修、課題討論等	40人	国、地方公共団体及び畜産関係団体の職員で、畜産領域に配属されて、原則3年以内の者、農業に従事する者
9	畜産環境保全 (堆肥化処理 ・利用技術) (専門)	畜産環境を取り巻く 諸状況の認識のた めに	9/6 ～9/10	5日間	肥料取締法の概要、堆肥化処理の原理と発酵に必要な条件、各種の堆肥化法と施設・攪拌移送機、処理施設の設計審査維持管理数値、家畜別各種堆肥化方式の実施設事例、ランニングコストの計算法と算出チェック、施設の設計審査・維持管理法の実技演習、 <u>堆肥の利用促進</u> 、畜産環境をめぐる情勢	28人	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等農業生産者団体の職員、農業に従事する者

NO	講座名		期間	日数	講義内容の概要（項目）	募集 人数	受講対象者
10	畜産環境保全 (耕畜連携、 堆肥利用促 進) (専門)	堆肥施用コーディ ネーターの養成の ために	9/15 ～9/17	3日間	畜産環境をめぐる情勢、 <u>優良堆肥の条件と施用の基 本、大規模畑作における施用の基本と現場利用事 例、耕畜連携における堆肥利用の経済性と組織対 応、地域における堆肥の循環利用の促進、水田作に おける堆肥施用の基本と現場利用、野菜作における 堆肥施用のポイント、総合討議等</u>	28人	畜産職域等に配属された国、 地方公共団体、畜産関係団体 及び農協等農業生産者団体 の職員、農業に従事する者
11	養豚（基礎）	養豚を取り巻く諸 状況の認識のため  <u>【隔年開催】</u>	9/28 ～9/30	3日間	養豚をめぐる情勢、豚飼料給与技術、養豚経営の現 状、 <u>豚肉の消費ニーズと動向</u> 、全農安心システム の概要、JGAP の状況について、アニマルウェルフ ェアの現状について、豚肉流通の現状と課題、豚の 育種改良とその推進体制、課題討論、養豚場のふん 尿処理、豚肉の疾病と防疫対策等	40人	国、地方公共団体、畜産関係 団体及び農協等生産者団体 職員で、当該分野に配属され て、原則5年以内の者、農業 に従事する者
12	畜産新技術 A・B(総合)	A：繁殖技術の向上 のために  B：畜産関係新技術 に係る諸状況の認 識のため	10/5 ～10/8	4日間	新技術の動向、遺伝子組換え豚、牛の繁殖・育種(ET、 受精卵移植、雌雄判別、クローン、ゲム)、新技術と行 政、SNP 解析、DNA 解析の改良、排せつ物の栄養生 理学的制御技術、ストレスが家畜生産に及ぼす影響と軽 減技術、畜産動物のアニマルウェルフェアの現状と 課題、 <u>現地研修、精密繁殖管理・分娩管理システム について</u>	40人 B日 程は 24人	国、地方公共団体、畜産関係 団体及び農協等生産者団体 の職員で、当該技術分野に配 属された者、又は関連業務の 経験のある者、農業に従事す る者

NO	講座名		期間	日数	講義内容の概要(項目)	募集 人数	受講対象者
13	肉用牛生産技術 指導者養成(2) (専門)	効率的生産技術 の指導者育成確 保のために	10/11 ～10/15	5日間	肉用牛をめぐる情勢、家畜改良センター業務の概 要と牛個体識別業務の現状、経営管理、繁殖牛の管 理技術、哺乳子牛の生理と飼養管理、改良と登録の 実務、受精卵移植・雌雄判別技術、肉質評価技術、 肉用牛審査実習	20人	国、地方公共団体、畜産関係 団体及び農協等生産者団体 の職員で、当該関連技術の指 導を担当する分野に配属さ れて、原則5年以内の者、農 業に従事する者
14	肉用牛繁殖経営 新規参入(基礎)	肉用牛繁殖経営 への円滑な新規 参入推進のため に	10/18 ～10/22	5日間	肉用牛をめぐる情勢、食肉流通の現状と課題、牛の <u>飼養管理、子牛の衛生管理技術及び飼養管理、ふん</u> <u>尿処理技術、飼料生産・調整、繁殖牛の放牧管理、</u> <u>放牧草地の造成管理利用、肉質評価技術、牛の個体</u> <u>識別業務の現状、自己経営診断手法のための記録・</u> <u>記帳、現地実習</u>	15人	畜産職域に配属された国、地 方公共団体、畜産関係団体及 び農協等農業生産者団体の 職員で、当該部門の指導に携 わる初任指導職員、農業に従 事する者
15	酪農(基礎)	酪農を取り巻く 諸状況の認識の ために	11/9 ～11/12	4日間	牛乳・乳製品の情勢、貿易交渉の情勢、 <u>自給飼料生</u> <u>産用機械の最新動向、乳用牛のベストパフォーマン</u> <u>ス実現のために、乳牛飼養管理技術</u> 、酪農現地動 画講義、JGAP の状況について、 <u>アニマルウェルフ</u> <u>ェアの現状について、乳牛改良の動向、疾病予防対</u> <u>策、牛群検定と農家指導、課題討論等、牛から学ぶ</u> 牛の管理、 <u>酪農ヘルパーを巡る情勢</u>	40人	畜産職域に配属された国、地 方公共団体、畜産関係団体及 び農協等生産者団体の職員 で、当該分野に配属されて、 原則5年以内の者、農業に従 事する者

NO	講座名		期間	日数	講義内容の概要(項目)	募集人数	受講対象者
16	肉用牛(基礎)	肉用牛を取り巻く諸状況の認識のために	11/16 ～11/19	4日間	肉用牛改良の情勢、牛肉流通、肉用牛のブランド化、 <u>牛疾病対策と農場 HACCP、食肉に関する意識調査、肉用牛(肥育)の栄養管理、和牛遺伝資源と改良、肉用牛育種改良、子牛の健康と生産性向上、JGAP の状況について、アニマルウェルフェアの現状について、肉用牛経営のデータ管理、肉用牛の放牧管理、一貫経営について、課題討論等</u>	40人	畜産職域に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者
17	畜産環境保全 (臭気対策技術) (専門)	畜産環境を取り巻く諸状況の認識のために	11/24 ～11/26	3日間	<u>臭気防止の基礎、臭気の実験・測定技術(実習)、畜産環境をめぐる情勢、設備・装置による脱臭技術の基本と各種脱臭法、悪臭対策の基本と苦情対応</u>	28人	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等農業生産者団体の職員、農業に従事する者
18	自給飼料(専門)	自給飼料を取り巻く諸状況の認識のために	11/30 ～12/2	3日間	<u>飼料をめぐる情勢、公共牧場の運営改善技術について、飼料作物の品種、飼料作物の栽培技術、飼料生産関係の農業機械、TMR センターの現状と課題及び展開方法、水田における飼料作物の生産拡大と耕畜連携の意義、稲発酵粗飼料の生産・収穫・加工調整技術、飼料用米の生産・収穫・加工調整技術、総合討論</u>	28人	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者

N0	講 座 名		期 間	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
19	畜産統計処理 (基礎)	統計分析法の修得のために  <b>【隔年開催】</b>	1/17 ～1/21	5日間	データの分析・検定、比率検定、因子分析、要因計画、相関・回帰、重回帰、パソコンによる統計処理・演習問題、演習（草地飼料、家畜飼養、飼養試験等）等	25人	畜産関連データの収集・分析に携わっており、日常的に表計算ソフトを利用している者、農業に従事する者
20	畜産環境保全 (畜舎污水处理技術) (専門)	畜産環境を取り巻く諸状況の認識のために	1/24 ～1/28	5日間	水環境行政の動向、畜産環境対策について、 <u>活性汚泥法污水处理技術の原理、污水处理技術の基本</u> 、污水处理施設の設計審査・維持管理に必要な数値(実習演習)、脱窒・硝化処理活性汚泥法、膜分離活性汚泥法	28人	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等農業生産者団体の職員、農業に従事する者
21	(時事問題)		未定	未定	未定		
	20講座 (除時事問題)						

(注) ①講座名欄の「講座名(A・B)」は、A(前半)、B(後半)のみの選択受講が可能を示す。

②従来の開設講座のうち、「畜産統計処理」、「統計遺伝育種学」、「畜産経営A・B」、「養豚」、「養鶏」、「養蜂」は、隔年で開催予定。  
令和3年度は「畜産統計処理」、「養豚」を予定。

③「時事問題」講座は、時宜にあった緊急性のある内容とするため、開催時期、開催日数等は未定。

④ 下線部の講義は農業従事者が出席することに適した内容となっている。(1日でも受講可能)